

参考資料(1)

MLFユーザーアンケート

アンケート概要

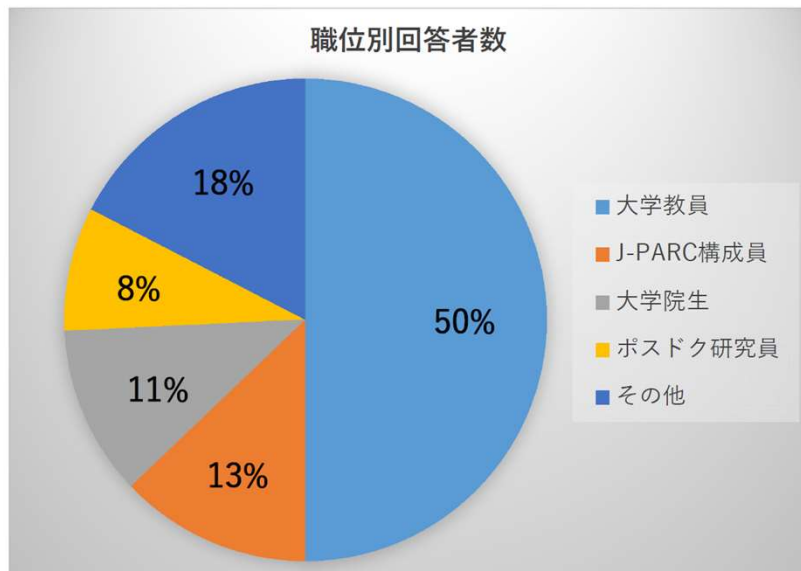
実施方法 Web上でフォームから入力

実施期間 2023/01/05 ~ 2023/01/31

アンケート対象者（2022年1月～12月のMLF利用者） 1316名

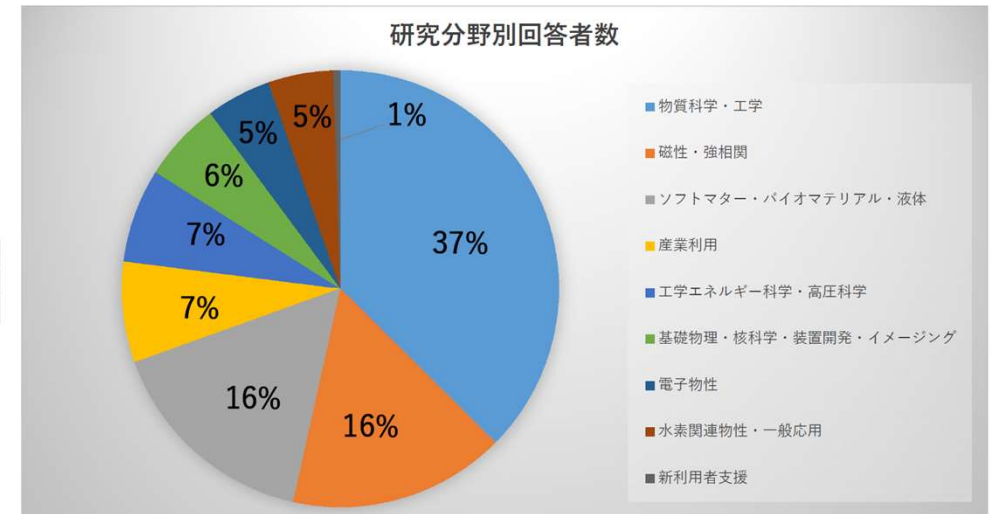
回答者数 日本語画面：77名 英語画面：55名 計132名

回答率 10.0%



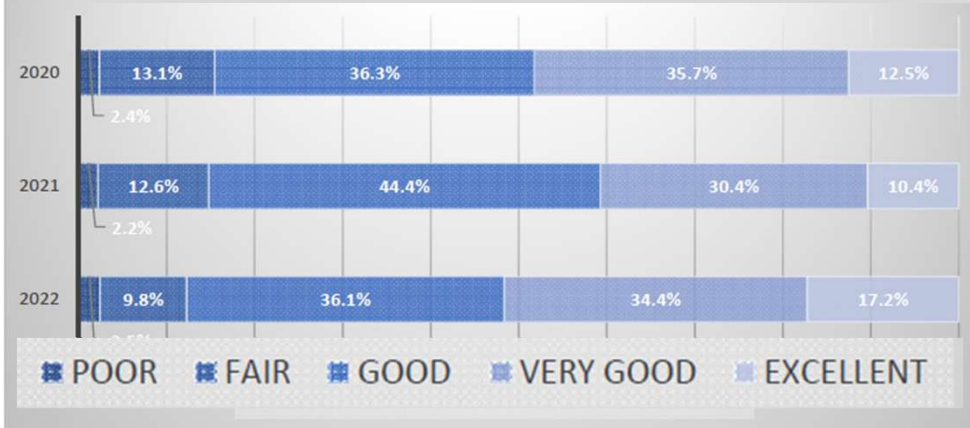
その他内訳

民間企業	20
国立研究開発法人	2
日本原子力研究開発機構	1

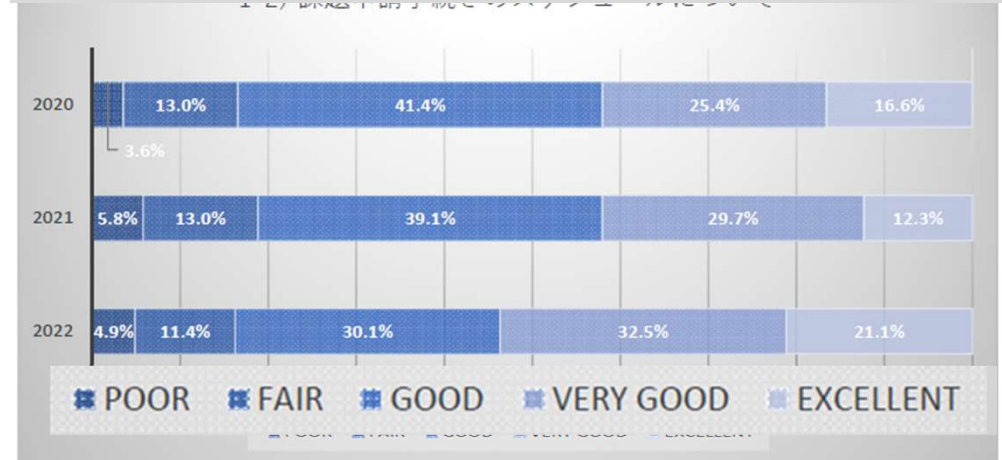


1. 課題申請

1-1) 課題申請手続きの簡潔性について



1-2) 課題申請手続きのスケジュールについて



1-3) 課題申請手続きの公平性について

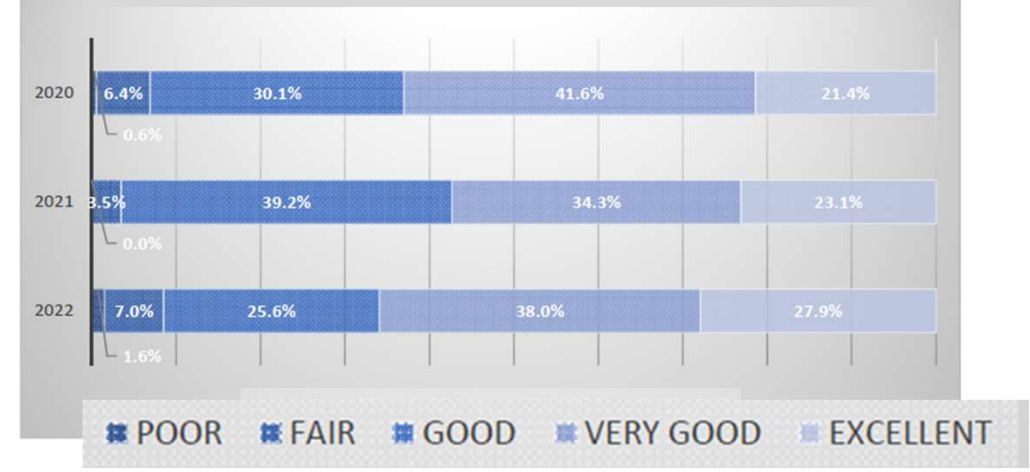


2. 安全教育

2-1) コンピュータを用いた教育効果について



2-2) 安全教育のコンテンツについて



3. 支援施設

3-1) ユーザーラボ実験室について



3-2) ユーザーラボの機器や供給品について



3-3) ビジター向けのコンピュータ/ネットワークアクセスについて



3-4) ユーザー控室について



3. 支援施設 その2

3-5) 休憩室／軽食コーナーについて



3-6) 宿泊施設について

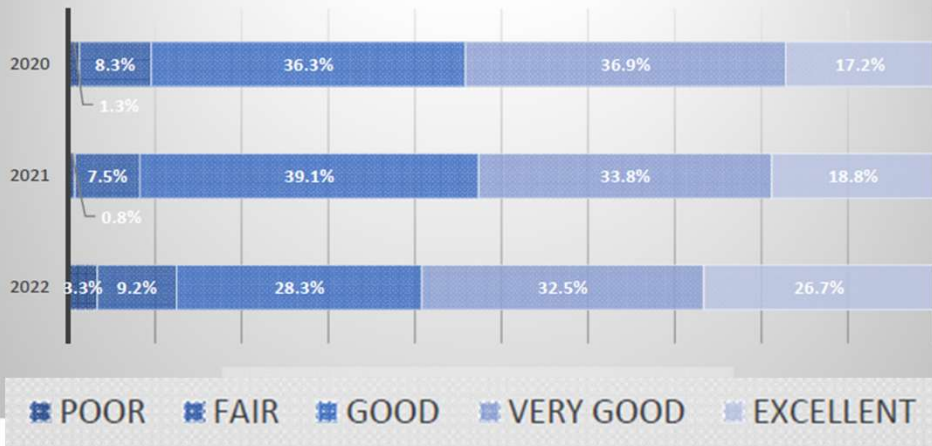


3-7) 運転状況について



4. 試料環境

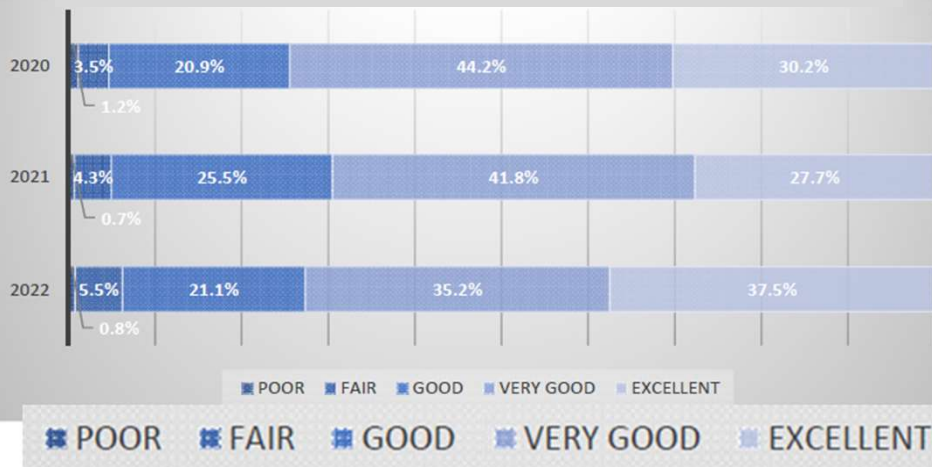
4-1)利用できる試料環境について



4-2)試料環境のサポートについて



4-3)機器・設備の質と信頼性について

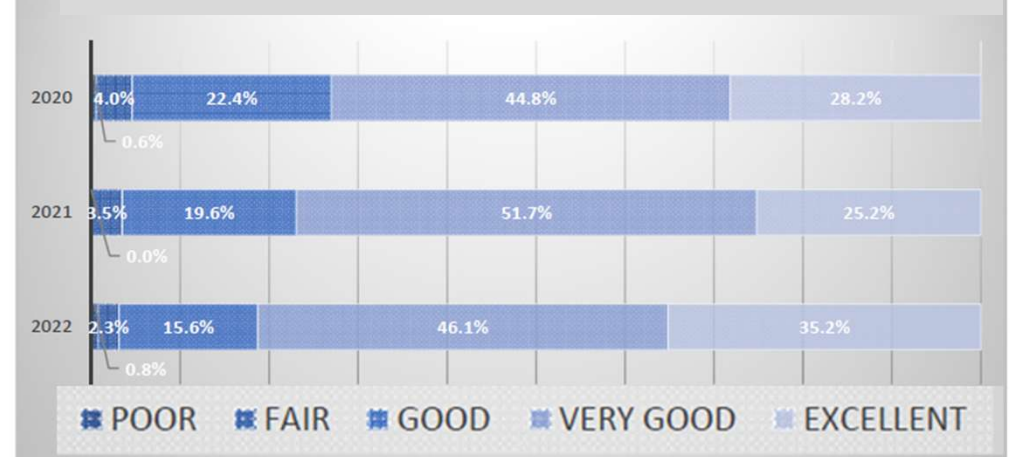


5. 装置の性能

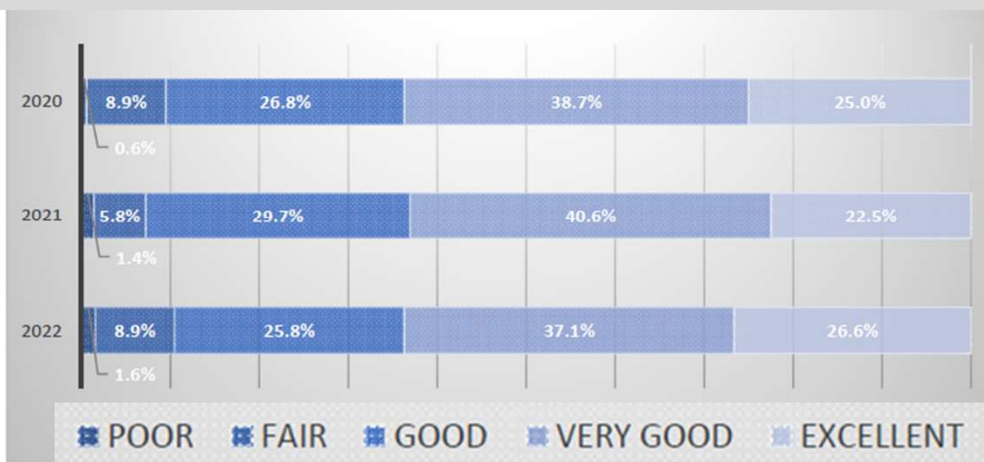
5-1) スタッフからのサポートについて



5-2) ハードウェアの信頼性と性能について



5-3) データ取得／装置制御のソフトウェアについて



6. ソフトウェア（データ解析ソフトウェア）

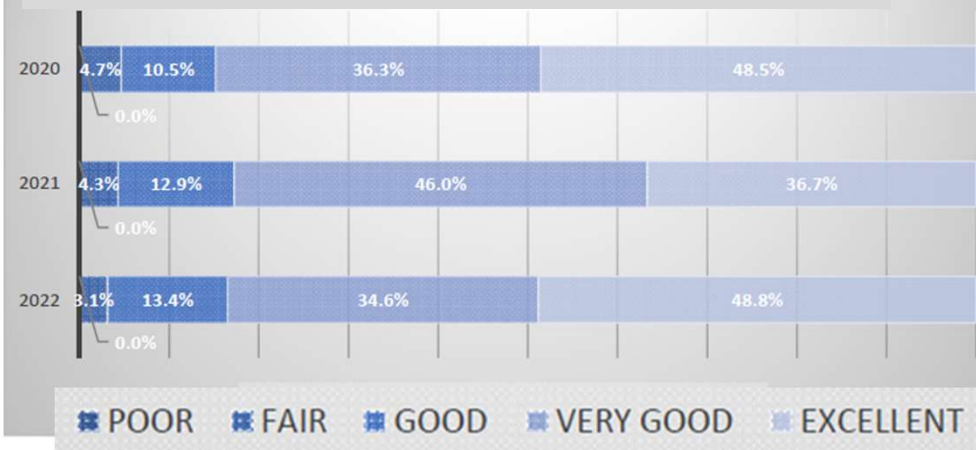
6-1) ソフトウェアの質のサポートについて



6-2) ソフトウェアの性能範囲について



6-3) スタッフからのサポートについて



6-4) ソフトウェアのリモートアクセスについて



参考資料(2)

2023年度に実施している施設枠課題

施設枠課題での戦略分野の推進

施設枠（プロジェクト課題、S型課題、開発課題）による内部スタッフ主導の戦略分野研究の推進（本ページと次ページ）

課題番号	JAEA プロジェクト課題 課題名	BL
2023P0100	次世代中性子源のための減速材、反射材及び構造材の散乱データの測定と散乱カーネルの構築	BL04, BL10, BL14
2023P0200	中性子が明らかにする埋もれたソフトマター界面のナノ構造・ダイナミクス	BL17
2023P0300	大強度パルス中性子と複数種類の検出器を用いた中性子核反応研究	BL04
2023P0400	ミルフィーユ構造材料の構造解析によるキンク形成・強化のメカニズム解明	BL19
2023P0500	中性子光学デバイスおよび検出システムの開発と応用	BL10, BL15, BL17
2023P0600	偏極中性子を用いた乱れた構造に係る研究手法の開発	BL02, BL17, BL18, BL19
2023P0700	自動車用燃料電池の触媒層形成プロセスの解析	BL15
課題番号	CROSS 開発課題 課題名	BL
2023C0001	高圧下における水の定量評価：高圧中性子CT法の開発	BL11
2023C0002	Rheo-SANS実験環境の高度化：シアセルの整備	BL15
2023C0003	TAIKANにおける先鋭的調湿制御装置の開発3	BL15
2023C0004	充放電過程におけるSANS実験用電池セルの開発	BL15
2023C0005	分光分析法と中性子反射率法を協奏的に利用したナノ構造/物性同時計測法の開発	BL17
2023C0006	特殊環境固液界面セルの開発と研究	BL17

課題番号	KEK S型課題 (中性子) 課題名	BL
2023S01	高分解能チョッパー分光器による 物質のダイナミクス の研究	BL12 HRC
2019S03	パルス冷中性子を用いた中性子 基礎物理 研究	BL05 NOP
2019S05	SuperHRPDの開発と 機能性物質の構造科学 研究	BL08 s-HRPD
2019S06	高強度中性子全散乱法による 機能性材料の規則—不規則構造 解析	BL21 NOVA
2019S07	中性子共鳴スピンエコー分光器群(VIN ROSE)による スローダイナミクス 研究	BL06 VIN ROSE
2019S09	偏極中性子散乱装置POLANOによる 交差相関物理 の解明	BL23 POLANO
2019S10	機能性材料の 機能性と反応の構造学 研究	BL09 SPICA

課題番号	KEK S型課題 (ミュオン) 課題名	BL
2011MS01	ミュオニウム の超微細相互作用構造および ミュオン磁気モーメント の精密測定	H1
2011MS03	RCSからのパルス陽子ビームを活用した ミュオン電子転換過程 の探索実験	H1
2011MS05	低速負ミュオンビームの実現 に向けた基礎研究	D2
2011MS06	J-PARCにおける ミュオン異常磁気能率と電気双極子能率 の測定実験	H2
2015MS01	透過型ミュオン顕微鏡	H2
2019MS01	宇宙X線ガンマ線検出技術 を用いた新たな負ミュオン実験の展開。原子物理から高精度3D非破壊元素分析まで。	D2
2020MS01	ミュオニウムの1S-2S レーザ分光による ミュオン質量精密測定	S2/H1
2021MS02	電池・半導体等の 実用材料 、及び 考古資料等の文化財 に於ける複合ミュオンラジオグラフィの開拓・応用	D2
2022MS01	リチウム のミュオン特性 X 線のイメージングの実現	D2
2022MS02	複合極限条件下のミュオン スピン 回転・共鳴法による 水素化物超伝導 の水素の挙動解明	S1

参考資料(3)

産業利用促進の方策
コンソーシアム
アライアンス

産業利用促進方策について

機能性高分子コンソーシアム (2019~2021年度)

企業グループ： クラレ、住友ベークライト、DIC、日産化学、三井化学
 学術研究チーム： 九州大学、三重大学、KEK、名古屋工業大学等

期待される効果

- 産業界
 - ・ 中性子によるイノベーション創出
 - ・ 継続的に施設を使いこなす **パワーユーザの育成**
- 学 術
 - ・ 産業界にマッチした人材育成
 - ・ 先行研究、中性子利用研究者育成
- 施 設
 - ・ ユーザー支援負担軽減
 - ・ 成果専有課題の増加



成 果

1. 参加企業 **2社**が新たにパワーユーザーに成長
2. コンソーシアムで共同開発した試料環境制御技術を使う一般利用者数が大幅に増加
3. 学術成果：学会発表17件（内企業5）、論文8報（内企業1）

@2018	@2021
1 企業A	1 企業A
2 企業B	2 企業B
3 企業C	3 企業C
4 住友ベークライト	4 住友ベークライト
5 企業D	5 企業D
6 企業E	6 企業E
7 企業F	7 日産化学
8 企業G	8 企業F
9 企業H	9 企業G
10 企業I	10 企業H
11 企業J	11 企業I
12 企業K	12 企業J
13 企業L	13 クラレ

企業によるMLF利用実験課題申請数 ランキング



温湿度制御チャンバー (準弾性散乱装置用)

量子ビーム分析アライアンス (2021年度~)

- 複数量子ビーム施設のワンストップ利用
- 量子ビームエキスパート人材の育成

京都大学を中心に、**産業界 14社と2大学**が参加し、量子ビーム分析アライアンスを結成。
 CROSSが業務受託

